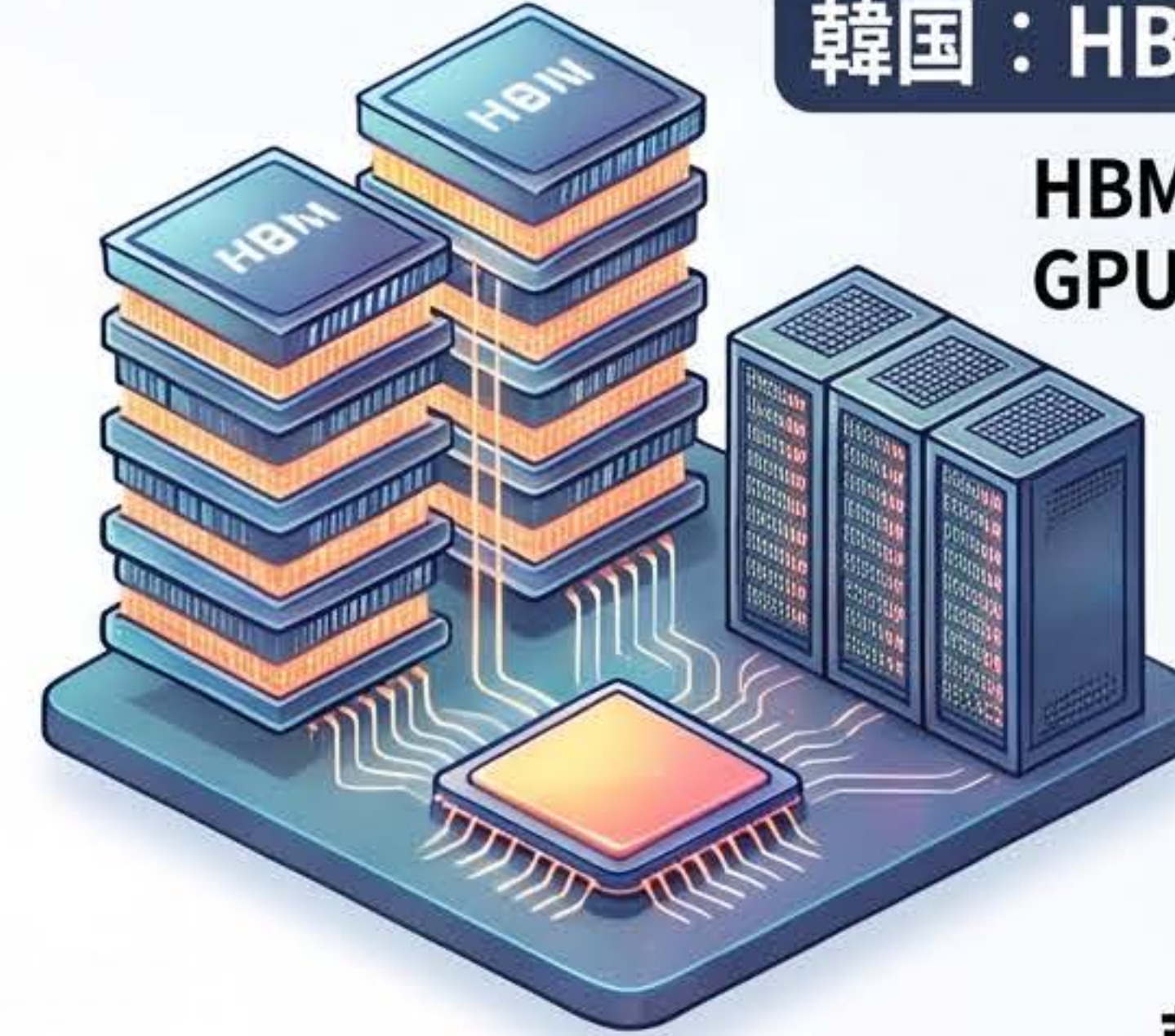
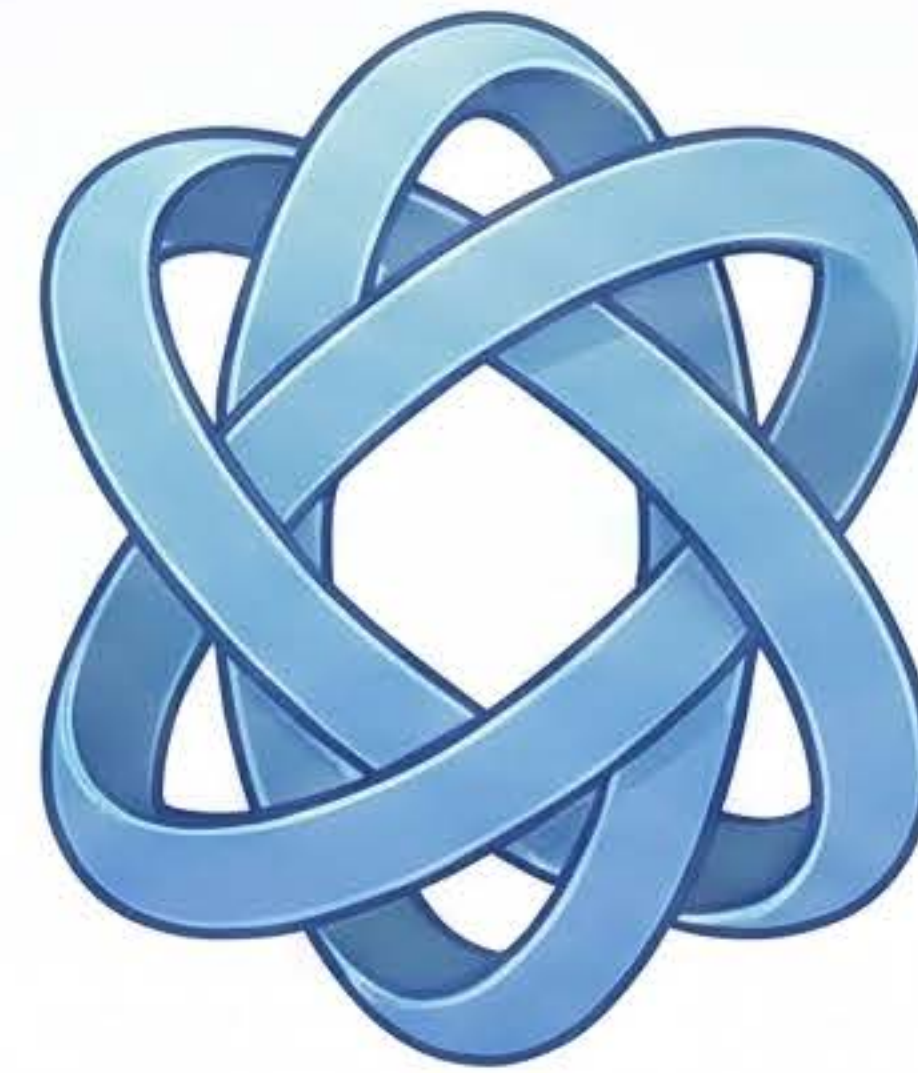
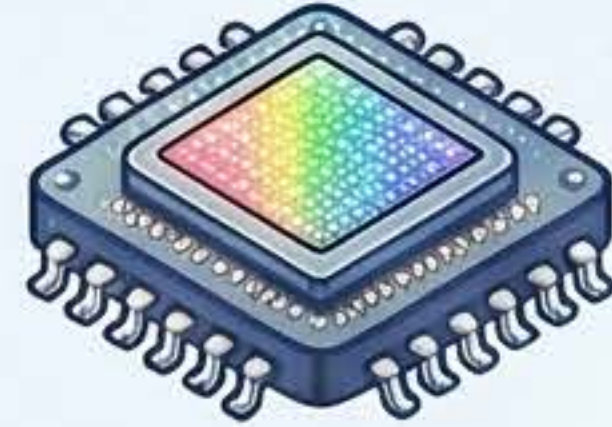


NVIDIAの東アジア・エコシステム：日本の「フィジカルAI」戦略と勝ち筋

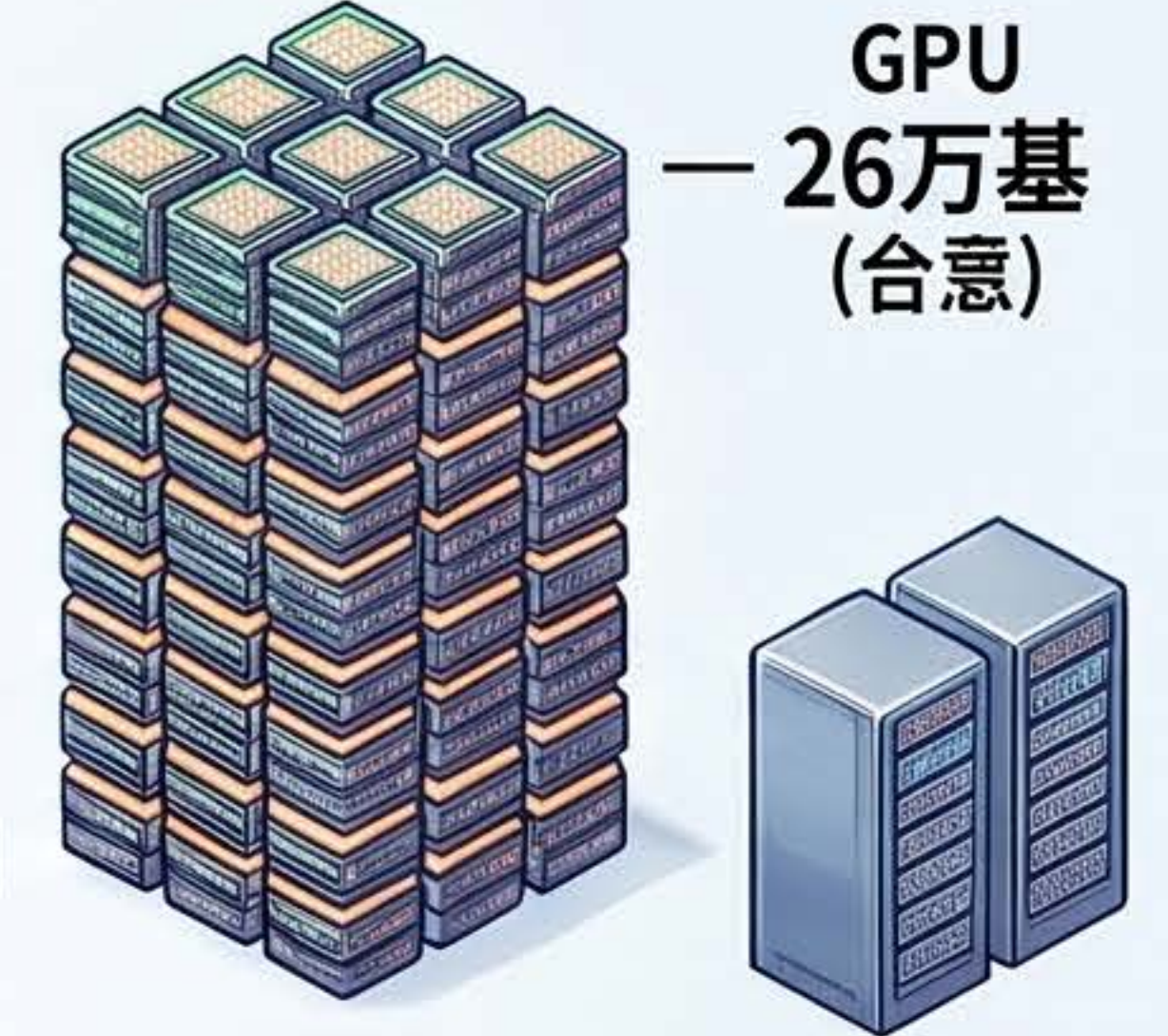
日本：フィジカルAIの「需要・実装」拠点

産業用ロボット世界シェア45%の強み
製造・医療現場へのAI実装を担う。



韓国：HBMメモリ供給と「大規模需要」

HBM世界シェア約80%を握り、26万基の
GPU確保で大規模モデル開発を加速。



GPU
— 26万基
(合意)

韓国
(政府・財閥
連合)

台湾
(製造元)



ロジック製造能力:
(TSMCに劣後)

台湾
(TSMC)



ロジック製造能力:
月産 10万枚超
(順鑫工場)



役割: 先端製造・パッケージング

計算資源・製造規模の圧倒的な格差

日本
(Noetra/
Rapidus)



Rubin GPU
— 2.75万基

日本
(Noetra/
Rapidus)



ロジック製造能力:
月産 0.7万枚
(2027年目標)

台湾
(製造元)



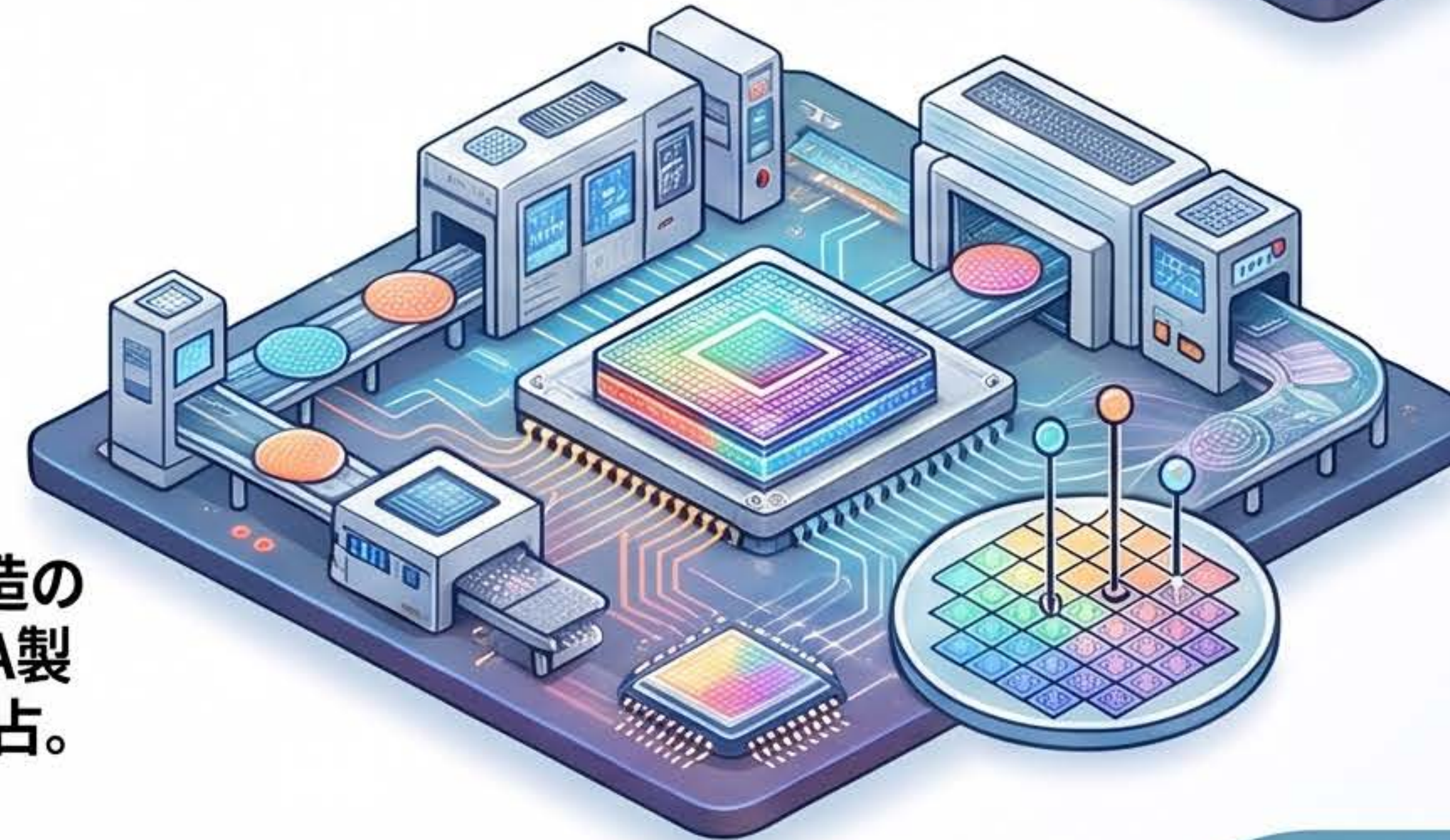
フィジカルAI実装



役割: フィジカルAI実装

台湾：AI半導体の「先端製造」中枢

TSMCが先端ロジック製造の
92%を集中させ、NVIDIA製
ハードウェアの生産を独占。



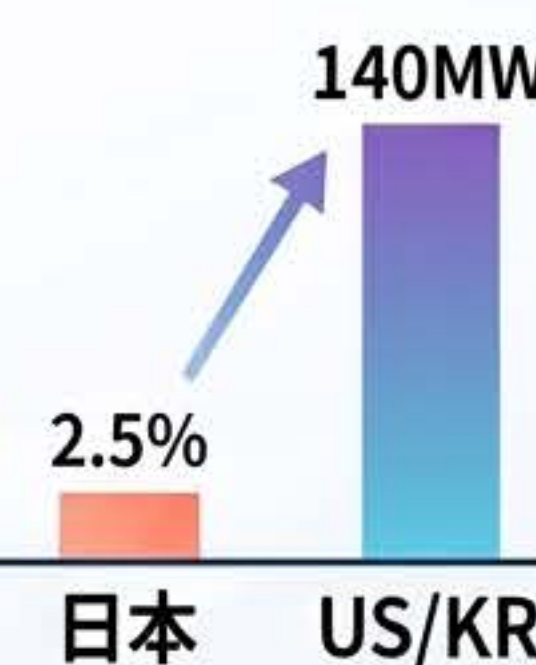
日本の「勝ち筋」と5つの構造課題



唯一のレバレッジは
「川上素材・装置」
EUVレジスト90%超など、
代替不能な後工程
材料を対外交渉の
カードとする。



140MW規模の
国家AIインフラ構築
Noetra連合により
2028年稼働を目指す
が、米韓のGW級投資
とは桁違いの差。



製造現場の
「リアルデータ」が核心
他国が複製困難な
製造データを標準化し、
NVIDIAスタックへの
ロックインに対抗する。

